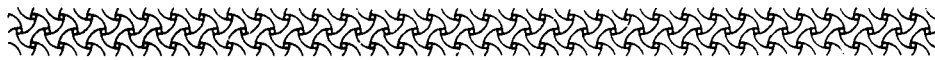




学内広報



2001. 10. 24
東京大学広報委員会

総合研究博物館特別展示

東京大学コレクション(XII)「真贋のはざま——デュシャンから遺伝子まで」展



(6 ページに関連記事)

目次

一般ニュース 2
 評議会(10月16日(火))承認事項、東京大学
 21世紀学術経営戦略会議(UT21会議)から
 部局ニュース 3
 平成14(2002)年度大学院法学政治学研究
 科修士課程入学試験について、自衛消防審
 査会出場報告、生産技術研究所新研究棟竣
 工記念式典・祝賀会開催、バリアフリー分
 野に入学した外国人学生に母国大統領夫人
 が激励、平成13年度会計事務担当者実務研
 修特別講義を開催
 掲示板 5
 「大規模科学技術計算に関する国際シンポ
 ジウムSSS2001: Scalable Solver Software
 Multiscale Coupling and Computational
 Earth Science」の開催について、緊急シ
 ンポジウムのご案内「狂牛病から日本の畜
 産を守る」、第21回東京大学農学部公開セ

ミナー「農学新世紀：生物生産の現場から」、
 シンポジウムのご案内「2050年、90億人の
 食糧を生産する」、第6回教養学部共通技
 術室技術発表会の開催について、新しい図
 書館サービス・Webリクエストサービスを
 を開始、総合研究博物館展覧会の御案内、
 総合研究博物館小石川分館のお知らせ・生
 産技術研究所千葉実験所公開、第3回人工
 物工学コロキウム3rd RACE Colloquium
 「共創工学—人工物創出における新たな試
 み」、保健センター週間診療日程表、デー
 タベース講習会のお知らせ、第2回東京大
 学公開学術講演会の開催—昴さざめく小夜
 思索の森へ—

事務連絡(人事異動) 11
 討報(前田和美名誉教授) 11
 広報委員会 11
 UT Forum 21 No. 1(対外広報誌)の提
 供について
 淡青評論「乗り換え上手」 12

≪ 一般ニュース ≫

評議会（10月16日（火））承認事項

発明規則の一部改正

東京大学発明規則の一部を改正する規則

平成13年9月19日付けをもって大学院情報理工学系研究科発明委員会規程が制定され、同規程が平成13年9月1日付けで適用されることに伴い、所要の改正が行われた。

附 則

この規則は、平成13年10月16日から施行し、改正後の東京大学発明規則の規定は、平成13年9月1日から適用する。

東京大学において科学技術振興調整費により雇用される教員等の取扱いに関する要領の制定

東京大学において科学技術振興調整費により雇用される教員及び研究員の名称、呼称、身分、職務、選考等の取扱いに関し、必要な事項を定めた。

附 則

この要領は、平成13年10月16日から実施する。

東京大学21世紀学術経営戦略会議（UT21会議）から

UT21会議が10月16日（火）午後開催され、以下の委員会の設置が認められた。

○教育体制検討委員会

（目的）

教育体制検討準備委員会において整理された東京大学における教育の課題について検討する。短期的に取り組むべき事項については、今年度末を目途に検討を進め、教育体制の改善に関する実現方策をとりまとめる。

（メンバー）

委員長 小間副学長

副委員長 岡本数理科学研究科長

委員 各研究科長及び学環長、大学院総合教育研究センター長、総長補佐若干名、事務局長

○学内体制に関する3検討委員会

（主な任務）

・組織・運営機構検討委員会（委員長：小間副学長）

中枢組織、総長選挙・解任制度、部局の権限、各部署の役割分担、業務関係施設、常設委員会、大学法人法等

・財務・会計検討委員会（委員長：宮島副学長）

資金の配分原則、長期的財源確保、大学病院のあり方、外部資金の確保、外部業務委託、知的所有権管理、

事業運営等

・人事・業務・評価検討委員会（委員長：廣渡総長特別補佐）

長期目標・計画、中期目標・計画、評価体制・評価項目・自己評価、公務員型/非公務員型、教官任用制度・任期制、教育専念教官、事務組織、職員人事、職員人事交流、専門職員等（メンバー）

委員：各研究科長及び研究所長、広報委員長、総長補佐、事務局長、企画調整官、事務局各部長

各委員は、3委員会のいずれかに入るものとする。

（備考）

中間報告を平成14年秋、本報告を平成15年3月末に出す予定で審議を進める。

≡ 部局ニュース ≡

平成14（2002）年度大学院法学政治学研究科
修士課程入学試験について

平成14（2002）年度大学院法学政治学研究科修士課程
（研究者養成コース・専修コース）の入学試験は、9月

4日（火）～9月6日（木）に筆記試験が、10月2日（火）～10月5日（金）に口述試験がそれぞれ行なわれ、10月12日（金）に合格者（入学許可内定者）が発表された。

なお、志願者数、受験者数及び合格者数は以下のとおりである。

| コ ー ス | | 研究者養成コース | | | | 専 修 コ ー ス | | | |
|-------|--------|----------|----|----|-----|-----------|-----|-----|-----|
| | | A | B | C | 計 | 一 般 | 職業人 | 外国人 | 計 |
| 志願者数 | 本学出身者 | 47 | 4 | | 51 | 91 | 6 | 1 | 98 |
| | 他大学出身者 | 72 | 20 | 10 | 102 | 201 | 52 | 23 | 276 |
| | 計 | 119 | 24 | 10 | 153 | 292 | 58 | 24 | 374 |
| 受験者数 | 本学出身者 | 42 | 4 | | 46 | 85 | 6 | 1 | 92 |
| | 他大学出身者 | 60 | 20 | 9 | 89 | 169 | 52 | 19 | 240 |
| | 計 | 102 | 24 | 9 | 135 | 254 | 58 | 20 | 332 |
| 合格者数 | 本学出身者 | 14 | 2 | | 16 | 32 | 5 | | 37 |
| | 他大学出身者 | 1 | | | 1 | 14 | 20 | 5 | 39 |
| | 計 | 15 | 2 | | 17 | 46 | 25 | 5 | 76 |

※研究者養成コースにおける選抜の種類

A：筆記試験（外国語1科目、専門科目3科目）、口述試験等により選抜。

B：本学法学部卒業（見込）者及び外国人特別選抜（C選抜）該当者を除き、出願時に小論文を提出した者を対象とする。

学業成績、小論文、筆記試験（外国語1科目）、口述試験等により選抜。

C：外国人特別選抜。筆記試験（外国語1科目、専門科目1科目）、口述試験等により選抜。
（大学院法学政治学研究科）

自衛消防審査会出場報告

9月13日（木）目黒消防署主催の自衛消防技術審査会が開かれ、生産技術研究所から3隊が出場した。

審査は緊急事態発生に備え、火災発生時の初期消火、消防機関への通報、負傷者への応急手当、屋内消火栓による消火活動等について審査されるもので防火管理者と

ともに、防災センターチーム、研究室技術官チーム、施設系技官チームがそれぞれ本番さながらきびきびとした訓練成果を発表し、優良賞を獲得した。

駒Ⅱ（リサーチキャンパス）全体での防災訓練が11月1日（木）に計画されており、当審査会出場チームによって屋内消火栓操法訓練を予定している。



（生産技術研究所）

生産技術研究所新研究棟竣工記念式典・祝賀会開催

生産技術研究所は、今春六本木キャンパスから全面移転した駒場Ⅱキャンパス（駒場リサーチキャンパス）において、10月10日（水）、学内外関係者約150名の出席のもと新研究棟竣工記念式典を開催した。

式典では、坂内生産技術研究所長が式辞を述べ、佐々木総長が挨拶、坂田文部科学省研究振興局審議官が祝辞を述べ、柳澤施設部長が工事概要を報告、坂内所長から21企業の代表者に感謝状が贈られた。

この後、研究室及び実験室の施設見学が行われた。引き続き駒場エミナースにおいて祝賀会が催され、舌津文部科学省文教施設部技術課長、鈴木国際連合大学副学長がそれぞれ祝辞を述べ、宮島副学長の発声で乾杯し、研究所の今後の発展を祝った。

当研究所は、昨年研究体制改組により一新しており、器となる研究棟が完成したことにより、標榜する「国際総合工学研究所」として今後大いなる活動が期待される。



（生産技術研究所）

バリアフリー分野に入学した外国人学生に母国大統領夫人が激励

東京大学先端科学技術研究センターでは視聴覚障害者の福島智助教授のもとにバリアフリー分野を設置し、障害者のための教育、研究を進めている。

本年9月におこなわれた大学院工学系研究科先端学際工学専攻の入学試験において、韓国の視覚障害者の女性、チョン ヨンミさんが合格し、10月1日から博士課程の大学院生として、福島助教授指導のもと研究に従事している。

チョンさんの東大大学院合格が9月26日に韓国のハンギョレ新聞に報道されたところ、韓国大統領夫人からチョンさん宛ての手紙とお祝いが9月28日付けで韓国大使館に送られてきた。送られた手紙とお祝いの緑色のスカーフは、10月15日に福島研究室に郵送で届けられた。手紙には「個人の榮譽のためでなく、同じ障害者のために働きたいということを素晴らしく思います。これからも指導者、教育者として力を尽くして下さい。」という激励のことが書かれていた。チョンさんと福島助教授は、翌16日に韓国大使館を訪問し、大統領夫人宛のチョンさんからのお礼状を手渡し、あわせて和紙でできたコースターとお香を返礼として贈呈した。

（先端科学技術研究センター）

平成13年度会計事務担当者実務研修特別講義を開催

「国立大学法人化に伴う会計上の論点」と題した平成13年度会計事務担当者実務研修特別講義が、平成13年10月18日午前9時30分から山上会館大会議室において開催された。

この特別講義は、国立大学の法人会計のあり方が急速に検討されているなか、企業会計と大学法人会計の基本的な知識の習得を目的として開催したもので、会計事務担当者実務研修生29名、各部署会計担当者60名が参加した。

講義は、中央青山監査法人公認会計士の清水涼子氏、関口恭三氏をお招きし、「大学法人制度の概要」、「企業会計の基本的な考え方」、「大学法人会計の基本的な考え方」の3部構成で進められ、参加者は新しい「国立大学法人」像をつかもうと、メモをとりながら、熱心に聴講した。

（経理部）

「大規模科学技術計算に関する国際シンポジウム
SSS2001: Scalable Solver Software Multiscale Coupling and Computational Earth Science」の開催について

「計算科学と地球科学の協力」をテーマに企画されたシンポジウムが開催されます。数値計算、並列計算やシミュレーションに関する技術的話題から次世代計算機環境の動向まで多岐にわたった講演が予定されております。学内外の研究者、技術者はもとより、学生の皆さんなど多数のご参加、ご発表を心よりお待ちしております。

日時：2001年12月3日～5日

場所：東京大学 山上会館（3日、4日）、同 弥生講堂（5日）

<http://www.tokyo.rist.or.jp/sss2001/>

参加登録およびポスター発表の申込みを受付中です。詳しくは上記のホームページをご覧ください。参加費は無料です。

問い合わせ先：

工学系研究科システム量子工学専攻 奥田洋司

電話03-5841-7426

Eメール okuda@q.tu-tokyo.ac.jp

(大学院工学系研究科・工学部)

第21回東京大学農学部公開セミナー 参加無料
「農学新世紀：生物生産の現場から」

1) 「農学と農業の新しい役割」

農業・資源経済学専攻 教授 八木 宏典

2) 「持続可能な作物生産のためのフィールド科学」

附属農場 教授 坂 齊

3) 「20世紀から21世紀への森林・林業の課題」

—「持続的森林経営」実践の現場から—

附属北海道演習林 教授 大橋 邦夫

日時 2001年11月17日(土) 13:30～

場所 東京大学農学部 弥生講堂一条ホール

東京都文京区弥生1-1-1

地下鉄南北線「東大前」下車 徒歩1分

地下鉄千代田線「根津」下車 徒歩7分

対象 一般（どなたでも参加できます）

定員 300名（当日先着順）

問い合わせ先 東京大学農学系総務課 広報情報処理掛

〒113-8657 東京都文京区弥生1-1-1

電話 03-5841-5484、8179

主催：東京大学大学院農学生命科学研究科・農学部

共催：(財)農学会

(大学院農学生命科学研究科・農学部)

緊急シンポジウムのご案内
「狂牛病から日本の畜産を守る」

1. 日時：2001年11月1日(木) 14:00～17:30

2. 場所：東京大学弥生講堂（地下鉄南北線東大前駅から徒歩1分）

3. 対象：一般（どなたでも参加できます）

4. 入場：無料（定員300名、当日先着順）

5. 内容：

主催者あいさつ

東京大学農学部長 林 良博

公衆衛生学からの提言

東京大学農学部教授 熊谷 進

ウイルス学からの提言

東京大学農学部教授 小野寺 節

農業経済学からの提言

東京大学農学部助教授 中嶋 康博

パネル討論および質問

6. 問い合わせ先 東京大学農学系総務課 広報情報処理掛

〒113-8657 東京都文京区弥生1-1-1

電話 03-5841-5484, 8179

7. 主催：東京大学農学部

共催：(社)日本獣医学会、(社)日本獣医師会、

(財)農学会

シンポジウムのご案内
2050年、90億人の食糧を生産する

1. 日時：2001年11月19日(月) 14:00～17:00

2. 場所：東京大学弥生講堂（地下鉄南北線東大前駅から徒歩1分）

3. 入場：無料（定員300名、申し込み順）

4. 申し込み先：参加ご希望の方は、下記に電話又は電子メールかFAXでお申込みください。

東京大学農学系総務課 広報情報処理掛

Tel 03-5841-5484, 8179 (直通)

Fax 03-5841-5028

E-mail sinpo2050@ofc.a.u-tokyo.ac.jp

5. タイトル：2050年、90億人の食糧を生産する

6. 内容：

14:00：主催者あいさつ

新領域創成科学研究科長 河野通方

14:10：基調報告（ビデオ）NHK地球白書第3巻「90億人を養う」

15:00：休憩

15:15：パネルディスカッション

遺伝子工学の活用：

新領域創成科学研究科教授 難波成任

在来種の再発見：

アジア生物資源環境研究センター助教授
高野哲夫

緑の革命の課題：

農学生命科学研究科教授 岩本純明

コーディネーター：

農学生命科学研究科長 林 良博

17:00:終了

7. 開催団体：

主催：東京大学大学院（農学生命科学研究科、新領域創成科学研究科）、

東京大学アジア生物資源環境研究センター

共催：財団法人農学会、社団法人家の光協会

協賛：財団法人アジア人口・開発協会、環境文化創造研究所

後援：NHK（予定）

（大学院農学生命科学研究科・農学部）

第6回教養学部共通技術室技術発表会の開催について

教養学部共通技術室では下記のように技術発表会を開催いたします。技術職員の技術向上のために、有意義な発表会にしたいと思っております。多数ご来聴くださいますようお願いいたします。

日 時：11月9日(金)

午前10時30分～午後3時30分

場 所：教養学部16号館1階107号室

問い合わせ先

共通技術室 小田嶋 豊

E-mail odashima@laputa.c.u-tokyo.ac.jp

TEL 5454-6063 内線46063

（大学院総合文化研究科・教養学部）

新しい図書館サービス、Webリクエストサービスを開始

附属図書館では、情報基盤センターと連携し、新しい図書館サービス、「Webリクエストサービス」を10月から開始しました。

Webリクエストサービスとは、従来、図書館・室のカウンターまで出向いて行っていただいていた各種の申し込みを、研究室や自宅のインターネットに接続したパソコンやWSからWebを通して行えるようにしたものです。

Webからリクエストできるサービスは、次のものです。（なお、いずれも学内者用のサービスです。）

○文献複写・図書借用申し込み

他の図書館・室や他大学に所蔵されている文献の複写や図書の借用をWebから申し込むことができます。

○図書申し込み

Webから希望する図書を申し込むことができます。図書の申し込みには、3種類あります。

①研究用図書請求（教官用）

②教官推薦図書（教官用）

③学生希望図書申し込み（学生用）

○貸出中図書への予約

貸出中の図書をWebから予約することができます。

Webリクエストサービスをご利用になるためには、次の手続きなどが必要です。

①「総合図書館・教養学部図書館等利用証」（図書館利用者ID）：お持ちでない場合は、Webリクエストサービスを実施している図書館（室）及び総合図書館で発行します。

②「複写・貸借Web申込サービス利用申請書」：あらかじめ所属部局の図書館（室）に申請が必要です。

なお、図書館・室によってサービス実施の有無、実施の内容、開始時期、サービス対象者等が異なりますので、Webリクエストサービスや申請等の詳細については、所属部局の図書館（室）にお問い合わせください。

Webリクエストサービスは、次のページからご利用になります。

<http://opac.dlitc.u-tokyo.ac.jp/uxbok/menu.html>

（附属図書館）

総合研究博物館特別展示

東京大学コレクション（XII）「真贋のはざまーデュシャンから遺伝子まで」展

今日の社会は多くの「コピー」に取り囲まれている。もちろん「コピー」とひとくちに言っても、技術の粋を集めた精密なレプリカから、写真や印刷物などの複製、さらにはニセモノとして蔑まれるものから、模写、贋物、再現、模型、フェイク、まがいもの、もどき、そして最近では物性を伴わないデジタル画像やヴァーチャル・リアリティまで、その指示対象は広汎にして、様態もまた多様である。そのため、何をもって「コピー」とするのか、その輪郭を規定するのは必ずしも容易でない。

しかし、確かなこともある。すなわち、「コピー」がまた「コピー」を呼ぶというようにその野放図な氾濫は止めどなく継起し、それと反比例するかのよう、「コピー」の存在を先駆ける「オリジナル」の影が薄くなりつつあるということ。「オリジナル」こそ正統であり、その存在がアブリアリにして絶対不可侵であるという伝統的な価値観は崩壊の危機に瀕している。代わりに、「コピー」でも十分に用は足りるとする機能主義的な思考がいまや凱歌を上げようとしているのである。

本特別展示では、こうした時代認識に立って、広くコピー現象と包括的に言い表わせるものが、われわれの生存をどのように取り巻いているのかを改めて問うてみることにした。

当然のことながら、「コピー」の問題を俎上に乗せることは、その対概念であるところの「オリジナル」の存在様態を問うことに通じる。ばかりか、ホンモノとニセモノ、真と贋などの認識や言説を成り立たせる、コピー/オリジナルという伝統的な二項対立図式がいかにかまやかに満ちたものであるか、その虚構性を暴いてみせることにもなるであろう。

表紙写真説明

教育用掛図『藤原隆信筆源頼朝像 神護寺』（写真複製画）

ゼラチン・シルヴァー・プリント、額装

明治末日本美術史学の教育用掛図。写真による複製も今日ではありふれたものであるが、当時としては実に貴重な教材であったに違いない。乾燥により画面に亀裂が走り、また劣悪な修理が施されている。

総合研究博物館新規収蔵展示 「宝石と原石」展

「玉磨かざれば光らず」と言われますが、宝石の原石は、磨かなくても十分に美しいし、場合によっては磨かない方が美しいこともあります。

今回、企画した「宝石と原石」では、鉱物の持つ色と形の多様性を感じ取って戴きたいと思えます。残念ながら、東京大学総合研究博物館には宝石のコレクションはありません。原石は鉱物標本として収蔵されています。展示するコレクションは、

宝石の原石：いずれも宝石となるほどの品質を備えていない鉱物ですが、その鉱物自身の形の美しさや多様性を存分に味わうことができます。カットされ宝飾品のカテゴリーに入ってしまうと味わうことができない美しさを持っています。

世界の著名なダイヤモンドのレプリカ：ドイツのドナウエッシンゲンにある宝石業者のハンドメイドによるレプリカで、素材は水晶です。どのダイヤモンドも本物を見る機会は殆どないでしょう。行方不明のものもあります。その全てを実感できるコレクションです。

会 期：平成13年10月20日(土)～12月9日(日)

土・日・祝日開館、月曜休館

開 館：午前10時～午後5時（入館は4時30分まで）

会 場：東京大学総合研究博物館

入場料：無料

お問い合わせ：総合研究博物館

ハローダイヤル03—3272—8600

URL：<http://www.um.u-tokyo.ac.jp/>

その他：ポスターは学内各所に掲示してあるほか、キャンパス内の総合研究博物館の看板に掲示してあります

(総合研究博物館)

総合研究博物館小石川分館のお知らせ

旧東京医学校本館の建物が新しく総合研究博物館小石川分館として11月12日より一般に公開されることとなった。同建物は、明治初年の木造擬洋風建築特有の様相を残すとともに東京大学創立以前からの長い歩みを見守ってきた建物で、国の重要文化財に指定されている。小石川分館は「学誌財情報拠点」とし、学校建築や学内各分野の標本・器材を展示しする。来館者は、専用端末を通じて文字・画像情報のデータベースを閲覧できる。また、本郷キャンパス関連のガラス乾板写真をはじめ多数の貴重な映像資料の公開が予定されている。

(総合研究博物館)

生産技術研究所千葉実験所公開

本所千葉実験所は、駒場キャンパスでは実施が難しい大規模な実験研究やフィールドテストなどのための附属施設です。今年新たに張力型空間構造モデルドーム観測システム（ホワイト・ライノ）が施設に加わり、また海洋・沿岸モニタリング実験棟（仮称）が年度内完成を予定に工事を行っているなど、近年とみにその利用が活発になっています。今年、隔年で実施しています千葉実験所公開を下記の要領で行いますので、是非この機会にご覧ください。

日 時 平成13年11月9日(金)

午前10時～午後4時

場 所 生産技術研究所千葉実験所

〒263-0022 千葉市稲毛区弥生町1-8

JR総武線西千葉駅下車 北口から約250m

問い合わせ 生産技術研究所千葉実験所事務局

先 電話 043 (251) 8311

公開テーマ

- ・高品質吹付けコンクリートの開発（魚本研究室）
- ・コンクリート構造物の各種非破壊検査（魚本研究室）
- ・スチール・スウィングによる柱の振動実験（大井研究室）
- ・鉄骨接合部の高速載荷実験（大井研究室）
- ・多層骨組のハイブリッド設計点探索（大井研究室）
- ・補強土壁工法の実物大模型実験（古関研究室）
- ・ゼロエミッションのための物質変換技術の開発（迫田研究室）
- ・車両の運動力学とアクティブ制御の展開（須田研究室）
- ・快適性の工学的評価（須田研究室）
- ・偏心を有する構造物の地震時応答（中埜研究室）
- ・ニューラルネットワークによる履歴推定を利用したサブストラクチャ地震応答実験（中埜研究室）
- ・張力型空間構造の構造性能と建設に関する研究（藤井研究室/川口研究室）
- ・スマート構造による建築構造物の振動制御（藤田（隆）研究室）

- ・リモートセンシングによる海洋観測(林(昌)研究室)
- ・海洋構造物挙動計測(藤野研究室(新領域)、林(昌)研究室)
- ・マイクロ波リモートセンシングによる表層土壌水分量の推定—散乱モデル適用のためのフィールド実験—(虫明研究室、沖研究室)
- ・都市流域の水循環過程の解明と水環境の保全(虫明研究室、沖研究室)
- ・地震が引き起こす様々な動的非線形挙動をシミュレーションする—断層破壊から家具の転倒挙動まで—(目黒研究室)
- ・千葉実験所における新設地震観測システム(山崎研究室)
- ・プラスチック成形現象の高次解析(横井研究室)
- ・円管内旋回乱流のX型熱線による三次元計測(吉識研究室、加藤(千)研究室)
- ・二次元翼周りの流れの非定常データ計測(吉識研究室、加藤(千)研究室)

(生産技術研究所)

第3回 人工物工学コロキウム 3rd RACE Colloquium 「共創工学—人工物創出における新たな試み」

日時：2001年10月30日(火) 10:00~18:00

場所：東京大学先端科学技術研究センター講堂(新4号館)

主催：東京大学人工物工学研究センター

開催主旨

第3回コロキウムでは共創工学を取り上げます。優れた製品もたちまち飽きられて廃棄され、斬新な発想も瞬時にコピーされ陳腐化することが多くなりました。環境・エネルギー問題、都市景観のデザイン、社会秩序の形成、新産業創出等、人間が深く関わり、多種多様なオプションや意見が混在し、相互に矛盾やコンフリクトが多い複雑も問題が増えています。簡略化された最適化問題としての処理や不良設定問題との不参加は許されなくなりつつあります。

旧来の産業別、分野別の工学の枠組みは必ずしも有効ではありません。異分野融合、異業種交流、産学連携、地域連携等、旧来の枠組みの改善と超克のための試みも多々開始されていますが、その多くは部分の総和を上回る成果の実現には至っていません。

問題設定の段階から多数の人々が共に創造的に関わることが求められる問題、すなわち共創的問題が増えています。そこでは、これまで以上に、目標とすべき成果、解決すべき問題の所在、意味を敏感に察知する能力、解を求めて試行錯誤する意欲と能力、情報や知識を収集・評価・活用して明らかに無謀な試みを排除し、スピーディで的確な行動をする能力が必要です。

社会的要請の変化にダイナミックに対応しながら様々

なコンフリクトを調整できるような普遍性、適応性、先見性のある理論的枠組みと知的生産性を向上させるための実践的方法論を兼ね備えた新しい工学は構築できるのでしょうか？

本コロキウムでは、「問題解決」という工学の原点に立ち戻り、良質で多様なデータ、情報、方法論、人間や組織の組み合わせが問題を解決し、新たな価値を創出する過程に焦点をあて、具体的範例の検討と真剣な議論を通して共創工学の核となるような研究課題の抽出を試みたいと考えております。皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

プログラム

10:00-10:15 【問題設定】

「人工物工学の社会的役割」 新井民夫(東京大学)

10:15-12:00【S1：イノベーションと社会への展開】

座長：馬場靖憲(東京大学)

”New values obtained through a linkage of data of the highest quality and their innovative customization—Gold in gold out, and garbage in garbage out” (データベースを活用した知のカスタム化)

P. Villars (MPDS)、岩田修一(東京大学)

「発見のための数学」 四方義啓(名城大学)

「産学共創」 芝池成人(松下電器)

「材料データベースのビジネスモデル」

青野祥夫(MP)

——昼食——

13:00-14:00 【特別講演】

座長：岩田修一(東京大学)

「1分子を見て、つかまえる：ブレイクスルーは如何にして達成されたか！」 柳田敏雄(大阪大学)

14:00-15:45 【S2：生命に学ぶ】

座長：増田宏(東京大学)

「生命体の設計原理を探る」

三宅 淳(産業技術総合研究所)

「遺伝子を読む」 油谷浩幸(東京大学)

「バイオパラダイムから人工物創成へ」

高橋浩之(東京大学)

——コーヒーブレイク——

16:00-18:00 【S3：ランドスケープデザインにおける共創は可能か？】

座長：下村芳樹(東京大学)

「理論と実践における課題」 宮城俊作(千葉大学)

「クライアントとの共創」

中野恒明(アプル総合計画事務所)

「住民参加とまちづくりのデザイン」

出口 敦(九州大学)

「ランドスケープとサービス」

下村芳樹、富山哲男(東京大学)

「データ共有と合意形成」 湊 方彦(AT&T)

【総括】

「共創のためのデータ活動」 岩田修一(東京大学)

コロキウム参加費 無料

資料 当日使用のOHP等のコピーを配布します。

参加申し込み・問い合わせ先

東京大学人工物工学研究センター内
第3回人工物工学コロキウム事務局
〒153-8904 東京都目黒区駒場4-6-1
Fax: 03-3467-0648

E-mail: race-colloquium@race.u-tokyo.ac.jp

参加ご希望の方は、お名前・ご所属・ご連絡先(住所、

電話、Fax、電子メール等)を明記し、10月27日(土)迄に、上記までお申し込み下さい。先着120名様に限らせて頂きます。

開催場所は、東京大学駒場リサーチキャンパスです。地図は<http://www.race.u-tokyo.ac.jp>に掲載されています。

(人工物工学研究センター)

保健センター週間診療日程表

本郷支所
平成13年10月1日現在

| 曜日 | | 時間 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 備考 |
|--------|----|-------------|--------------|------------|----------------|----------------|----------------|--|
| 診療科・室 | 午前 | 10:00~11:45 | 岩澤 | 藤沢 | 上床 | 奥田 | 藤沢 | 水曜午後1,3,5週 金曜午後1,3,5週 担当医師 池田/富谷 担当医師 池田/富谷 |
| | 午後 | 13:15~15:00 | 豊岡 奥田 | 鈴木 [越野] | 上床 [岡/和田] | 岩澤 奥田 | 奥田 [池田/富谷] | |
| 内科 | 午前 | 10:00~12:00 | [小宮] (隔月) | [倉代] | 引地 | | [小泉] | 予約制(急 患・相談・受 付は随時) 2ヶ月に1度 月曜日に午前 門診による 正相談 |
| | 午後 | 13:10~15:00 | 引地 (1,3週) | [西條] | [北] | [波田野] | | |
| 歯科口腔外科 | 午前 | 10:00~12:00 | | | 松崎 | | 松崎 | |
| | 午後 | 13:15~15:00 | 松崎 | [佐々木(徹)] | | 松崎 | | |
| 耳鼻咽喉科 | 午前 | 10:00~12:00 | 定松 河村 | 佐々木(司) | 佐々木(司) [梅景] | 佐々木(司) | 河村 | 予約制(受 付・相談は随 時) |
| | 午後 | 13:00~16:00 | 定松 河村 | [湊] | [工藤] | 佐々木(司) [藤村] | 河村 [伊集院] | |
| 精神神経科 | 午前 | 9:30~11:45 | 直接撮影 | 直接撮影 | 直接撮影 | 直接撮影 | 消化管透視 (月1回) | |
| | 午後 | 13:15~15:00 | | | | | 直接撮影 | |

駒場支所
平成13年10月1日現在

| 曜日 | | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 時間 | 備考 |
|-------|----|-----|------------|------|----|-------|-------------|----|
| 診療科・室 | 午前 | 上原 | 安東 | 張 | 張 | 安東 | 10:00~12:30 | |
| | 午後 | 上原 | 石川 | 張 | 石川 | 安東/石川 | 14:00~16:00 | |
| 内科 | 午前 | 引地 | | | | | 10:00~12:00 | |
| | 午後 | | | | | [青柳] | 14:00~16:00 | |
| 歯科 | 午前 | | | | | [渡会] | 10:00~12:00 | |
| | 午後 | | [白井]OR[多田] | | | | 14:15~15:45 | |
| 整形外科 | 午前 | 佐々木 | 河村 | [高橋] | 定松 | 定松 | 10:00~12:00 | |
| | 午後 | 佐々木 | 河村 | | 定松 | 定松 | 14:00~16:00 | |

柏健康相談室
平成13年10月1日現在

| 曜日 | | 時間 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 備考 |
|-------|----|-------------|----|---------------|----|----|----|----|
| 診療科・室 | 午前 | 15:00~17:00 | 上床 | 安東OR 石川OR張 | 藤澤 | | 岩澤 | |
| | 午後 | 15:00~17:00 | | 定松 | | 肥田 | | |

※火曜日の精神神経科と内科は、隔週で交互に診療 ※第1水曜日の翌日にあたる木曜日の精神神経科は休診

(保健センター)

データベース講習会のお知らせ

情報基盤センター図書館電子化部門では、下記のとおりデータベース講習会を実施します。データベースを利用した最新の文献調査方法に関する講習会です。どなたでもお気軽にご参加ください。

[データベース出張講習会]

ご要望に応じた内容で研究室までお伺いします。授業やゼミ等でご活用下さい。

希望の日時、内容等をメールでお知らせ下さい。スケジュールを調整の上、折り返しご連絡します。

●申込み先 学術情報リテラシー掛 内22649

literacy@lib.u-tokyo.ac.jp

[データベース定期講習会]

パソコンを使った実習を中心にしたコースです。なお、ご希望が多かった夕方からのコース(18時～19時)を増設しました。

参加予約は不要です。時間までに会場に直接お越し下さい。

●会場

総合図書館1階メディアプラザI 講習会コーナー

●定員 12名(先着順)

●各コースの内容

| コース名 | 内 容 |
|--|--|
| 入門コース | <ul style="list-style-type: none"> ・授業で指定された文献や参考文献リストに記載された文献の所在調査のテクニックを習得することを目的とします。 ・OPACなど基本的なデータベースを使った検索実習を中心とします。 |
| 実践コース(1) 文献データベース | <ul style="list-style-type: none"> ・研究に必要な文献を調査・収集するテクニックを習得することを目的とします。 ・雑誌記事索引データベースをはじめ、各専門分野の文献データベースの検索実習を中心に、文献調査方法と電子ジャーナルの利用について紹介します。 |
| 実践コース(2) 引用索引データベース (Web of Science) | <ul style="list-style-type: none"> ・研究に必要な文献を調査・収集するテクニックを習得することを目的とします。 ・引用索引データベース(Web of Science)の検索実習を中心に、文献調査方法と電子ジャーナルの利用について紹介します。 |

●スケジュール(11月～12月)

| 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|------------------------------|------------------------------|------------------------------|------------------------------|------------------------------|
| | | | 11/1 18:00-19:00 実践1) | 11/2 |
| 11/5 18:00-19:00 実践2) | 11/6 15:00-16:00 実践1) | 11/7 | 11/8 15:00-16:00 入門 | 11/9 11:00-12:00 実践1) |
| 11/12 11:00-12:00 実践2) | 11/13 18:00-19:00 実践1) | 11/14 | 11/15 | 11/16 15:00-16:00 実践2) |
| 11/19 15:00-16:00 入門 | 11/20 | 11/21 18:00-19:00 実践2) | 11/22 | 11/23 |
| 11/26 15:00-16:00 実践1) | 11/27 | 11/28 | 11/29 11:00-12:00 実践2) | 11/30 |
| 12/3 18:00-19:00 実践1) | 12/4 11:00-12:00 実践2) | 12/5 | 12/6 15:00-16:00 実践2) | 12/7 18:00-19:00 入門 |
| 12/10 | 12/11 15:00-16:00 実践1) | 12/12 18:00-19:00 実践2) | 12/13 | 12/14 15:00-16:00 実践1) |
| 12/17 18:00-19:00 実践2) | 12/18 11:00-12:00 入門 | 12/19 18:00-19:00 実践1) | 12/20 | 12/21 11:00-12:00 実践2) |

<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/dl/koshukai/>

(情報基盤センター)

第2回東京大学公開学術講演会の開催
一昴さざめく小夜 思索の森へー

平成13年7月11日(水)東京大学大講堂(安田講堂)において、第1回東京大学公開学術講演会「夏の夕べ知の泉へ」が開催されましたが、この度、第2回東京大学公開学術講演会「一昴さざめく小夜 思索の森へ」の開催が決まりましたので、お知らせします。

なお、講師等の詳細は、次号(No.1224 11月14日発行)に掲載いたします。

日 時:平成13年11月30日(金) 17:30~20:00

場 所:東京大学大講堂(安田講堂)

定 員:800名(当日先着順) ※事前の申し込みは必要ありません。

参加費:無 料

問い合わせ:東京大学「学術講演会事務局」

TEL:03(5841)2046

FAX:03(5802)8856

E-mail:campus@adm.u-tokyo.ac.jp

主 催:東京大学・(財)東京大学総合研究会

≪ 事務連絡 ≫

人 事 異 動

| 発令年月日 | 氏 名 | 異動内容 (新官職) | 旧 (現) 官職等 |
|------------|---------|--------------|----------------|
| 13. 10. 15 | 藤 田 夏 樹 | (死 亡) 死 亡 | 大学院農学生命科学研究科教授 |

≪ 訃 報 ≫

前田 和美 名誉教授

本学名誉教授前田和美先生が、10月5日(金)に逝去されました。享年70歳でした。

前田先生は昭和28年、東京大学教養学科ドイツ科の第一期生として卒業、そのあと、本学人文科学研究科修士課程でさらにドイツ文学を研究されました。同32年から慶応大学商学部講師になられ、のち助教授に昇進され、同39年には本学教養学部助教授に着任、同53年には教授に昇任されました。

先生は平成4年の定年退官に至るまで28年間、本学教養学部において研究・教育に当られました。先生の専門は、カフカ文学も対象としていましたが、一番力を注いでいたのは初期ゲーテの詩編でした。先生の在職中に発表されたゲーテ詩に関する諸論文において、精緻な解釈が行なわれています。これら論考とかかわっているのが、



定年後に発表されたゲーテ『ウルファウスト』の翻訳であり、これが、先生の心血を注いだ仕事であることは一目瞭然でありました。

先生は若いころ詩集一冊を刊行しておりましたが、40歳前後から斎藤茂吉師系の歌誌『童牛』に参加され、定年後はさらに多くのエネルギーを作歌に注いだようです。平成7年には詩歌集『間奏』を発表しています。先生の生涯の情熱が詩歌にあったことが納得される一巻でありました。

先生の長身瘦躯、温容な風貌というも際立った特徴のひとつでした。在任中は、同僚との酒席にもしばしば顔を出され、快活な笑みを浮かべながら談論を楽しんでおられました。終始、心優しい気遣いを失われぬ先生の姿が、強く印象に残っています。

先生の御冥福を衷心からお祈りします。

(大学院総合文化研究科・教養学部)

≪ 広報委員会 ≫

UT Forum 21 No. 1 (英語版对外広報誌) の提供について

UT Forum 21 No. 1 (对外広報誌) の残部がありますので、追加希望の方は、総務部総務課広報室 (内線: 22031, 82032 E-mail: kouhou@adm.u-tokyo.ac.jp) までご連絡ください。

なお、内容については、ホームページ

(<http://www.u-tokyo.ac.jp/eng/tansei/index.html>)

に掲載されておりますので、ご参考にご覧ください。

乗り換え上手

このごろの地下鉄はやけに深いところを走っており、乗り換えも大変である。エスカレーターを3回乗り換えても『あれ、まだ着かないのか』と感ずることもある。本郷周辺で言えば、大江戸線と丸の内線の乗り換えがこうである。また、南北線はホームにもドアが

付いており、しかもワンマンカーである。チャイムが鳴り終わるとドアが閉まります、とアナウンスはあるが、人が乗っている途中でも閉まってしまうことがある。これも最近はやりの自己責任ということになるのか。

東大でも定年が65歳まで段階的に延長されることになったが、その間に独立行政法人となった大学で5年毎に結果を出すということを繰り返していくと、この乗り換えのように感じることはないのだろうか。私たちは宇宙のかすかなささやきをとらえるための観測装置を開発しており、その波が地球に届くまでの時間に比べればほんの一瞬であるが、完成までにはまだ時間が必要である。その途中にはサバティカルがあっても良いし、理系の研究所も経営感覚を持たなければならないのであれば、教官がMBA



を取れる仕組みがあっても良さそうだ。一時的に広報担当になるのも有効かもしれない。なにせよ、短期的な成果をあげつつ、果てしない好奇心を持続させるためには、うまく気分転換

しなければならないと思う。しかし、たとえ心の中でそう思ったとしても、世の中を見ればリストラが広く深く進められており、とてもこんな悠長なことを言える雰囲気ではない。

手軽な対処法として、出張で乗る列車の中では専門とは関係の無い本を読むようにしている。もち

ろん、東京駅で時間に追われて買う本がいつも当たりとは限らないが、漢字変換さえままならない脳のリハビリ程度にはなる。また、ケイタイに象徴される短い暗号のようなメールのやりとりが多くなった現在では、このぐらひは努力しておかないと、やりたいことが伝わらない予算申請書になってしまうし、公開されても恥ずかしくない報告書が書けなくなりそうである。それだけでなく、私の苦手とする奥深い作品も読んで知恵を吸収しておかなければ、『乗り換え』のときに戸惑ってしまうかもしれないし、ストレスがたまって定年までもたないということにもなりかねない。

(宇宙線研究所 大橋 正健)

(淡青評論は、学内の職員の方々にお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。)

[次号の原稿締切]

11月7日(水)午後5時

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、総務課広報室を通じて行ってください。

No. 1223

2001年10月24日

東京大学広報委員会

〒113-8654 東京都文京区本郷7丁目3番1号

東京大学総務課広報室 ☎ (3811) 3393

e-mail kouhou@adm.u-tokyo.ac.jp

ホームページ <http://www.u-tokyo.ac.jp/index-j.html>